

「総合的な学習の時間」のカリキュラムづくりのポイント その2

新学習指導要領において、「総合的な学習の時間」の目標が整理されました。「総合的な学習の時間」は学校教育目標の実現に向け、今まで以上に重要な役割を担っています。「総合的な学習の時間」における資質・能力を育むための、【授業改善の視点】や、【全体計画】【年間指導計画】【単元計画】の見直しのポイントを紹介します。

Q1 「総合的な学習の時間」の授業改善の視点は？



【ポイント1】 「主体的な学び」の視点

学習過程の中で子どもたちが主体的に学んでいく上で、課題設定と振り返りが重要となります。そのために、**対象との関わらせ方や出会わせ方などを工夫**する必要があります。そのことが息の長い探究的な学習活動の原動力となります。

子どもの発達や興味・関心を把握した上で体験活動をするといいね。



【ポイント2】 「対話的な学び」の視点

異なる多様な他者と協働して主体的に課題を解決しようとする学習活動を重視する必要があります。**他者と力を合わせて課題の解決に向かう**ことが大切になってきます。

異なる視点や多様な情報を活用して学ぶことが大事だよ。



【ポイント3】 「深い学び」の視点

「総合的な学習の時間」では**探究的な学習の過程が重視**され、「問いを見いだす」ということが位置付けられました。実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるとされています。

探究的な学習の過程があることを意識して、活動や授業展開を構想してみましょう。

しかし、この過程は順番が前後する場合もあります。教師は、子どもの姿を「今はどの過程にあるのか」という目でとらえ、活動や授業展開を構想し

探究的な学習の過程の重視



Q2 「全体計画」の見直しのポイントは？

必須の3要件が変わったよ。



「総合的な学習の時間」での学びが、学校教育目標の実現となるように、自校の目標とのつながりを意識しましょう。



今までの学習指導要領での3要件

- ① 各校の目標
- ② 各校の内容
- ③ 育てようとする資質・能力及び態度

新学習指導要領での必須の3要件

- ① 学校教育目標
 - ② 各校の目標
 - ③ 各校の内容
- (ふさわしい探究課題・育成を目指す具体的な資質)

全体計画の例

A中学校 総合的な学習の時間 全体計画

<生徒の実態>

- 教師の指示をよく聞き、行動する
- 生徒会や部活動に積極的に取り組む
- 働くことや職業への意識が高まっている
- △集団生活で周りを気にしてしまう
- △自信をもって自分の意見を言えない傾向が見られる

<学校教育目標>

- 1 自分から行動できる生徒
- 2 規律を重んじる生徒
- 3 人の心に寄り添える生徒
- 4 命を大切にする生徒

<保護者の願い>

- ・学習や部活動に一生懸命取り組んでほしい
- ・落ち着いたある学校生活を送ってほしい

<地域の様子>

- <ひと>
- ・デイサービスを利用している高齢者やそこで働く人々が多い
 - ・地域の人による清掃活動
- <もの>
- ・歴史ある神社仏閣がある
 - ・自然に囲まれている
- <こと>
- ・秋の収穫祭やデイサービスふれあい祭りがある
 - ・由緒ある伝統産業が盛ん

<いきいきタイムの目標>

自分と地域の「ひと・もの・こと」との関わりについて、探究的な活動を通して総合的に追究する力を身につけ、そこにある問いを主体的に見だし、仲間と協力して問題を解決するとともに、自己のあり方や生き方を見つけることができる

<地域の願い>

- ・地域の一員として地域の誇りとなる生徒になり、町の担い手となってほしい
- ・歴史と伝統のあるこの中学校でのびのびと学習し、地域と共に歩む生徒になってほしい

資質・能力の三つの柱で設定

<ふさわしい探究課題>

環境	地域の自然環境とそこに起きている環境問題の解決に取り組む人々
職業	地域で働く人々の仕事に対する姿勢や願い
福祉	地域の高齢者の生活を支える人々

自校の探究課題に応じて「知識及び技能」を設定する

<育成を目指す具体的な資質・能力>

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然の価値や必要性を理解する ・学区内の環境問題等についての情報を調べたり、整理したりする ・職場体験などから仕事の大切さを理解する ・体験活動で得た情報を比較したり、分類したりする技能を身につける ・地域の高齢者を支える人々と関わり、どんな課題があるか理解する ・高齢者が安心できる暮らしについて考えを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な問題状況の中から、適切に課題を設定する ・課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える ・異なる意見や他者の考えを尊重した上で、自分の考えを分かりやすく伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来を考え、夢や希望をもつ ・自己の目標を明確にし、課題解決に向けて計画的に行動する ・互いの特徴を生かし協働して課題を解決する ・課題の解決に向けて、社会活動に参画する

課題解決に向けた探究的な学習の過程を意識する(学習方法)

自分自身に関することと、他者や社会との関わりに関するこの関係を意識する

<学習の評価>

- ・課題意識を喚起する指導法の工夫
- ・各教科との関連を意識した学習活動の展開
- ・言語活動を積極的に取り入れた学習活動の位置付け
- ・対話やコミュニケーションを重視した学習活動の充実

- ・ポートフォリオを活用した評価の充実
- ・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定
- ・個人内評価の重視
- ・指導と評価の一体化の重視
- ・学期末や学年末における指導計画の評価と改善
- ・授業分析による学習指導の評価と授業改善
- ・学校運営協議会を活用した評価の実施

<指導体制>

- ・学年を中心とした指導とサポートの体制を構築
- ・学年会での情報交換
- ・オープンスペースの活用と学年全体での指導の活用
- ・担任以外の職員による支援体制の確立

<主な学習活動>

1 学年	2 学年	3 学年
学区内のため池調査で、地域の歴史と自然を調べよう	全ての人が平等に住みやすい町のプランを考えよう	自分を見つめ、社会を見つめ、人生を考えよう

よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくことができる課題を設定する(学習対象)

Q3 「年間指導計画」の見直しのポイントは？



子どもたちの学習状況を適切に把握しながら、育成を目指す資質・能力が記載されているか確認することです。配慮することは次の4つです。

- 子どもの学習経験を配慮すること。
- 季節や行事など、適切な活動時期を生かすこと。
- 各教科との関連を明らかにすること。
- 外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流を意識すること。

主要要素としては、以下の内容が考えられます。

- 「単元名」 「主な学習活動」 「活動時期」
 「予定時数」 「他教科との関連」

「資質・能力」を記すと、探究的な学習がより充実するね。

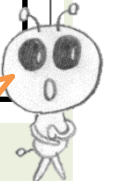


年間指導計画の例

A中学校3学年 年間指導計画

月	単元名			主な学習活動			育成を目指す資質・能力					
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
探究課題	私たちの未来 —今と昔、くらしの変化を探ろう— (20)			私たちの未来 —地球環境討論会— (30)			私たちの未来 —私の主張!— (20)					
地域の自然環境とそこに起きている環境問題の解決に取り組む人々	<ul style="list-style-type: none"> ○昔の写真をもとに地域探訪し、地域のくらしの変化を調査しよう (知) ○くらしの変化に伴い、私たちの何が変わったのか、そしてどのような問題が生じたのか、また、豊かな自然とは何かについて議論しよう (思) ○自分はどのように生活し、社会と関わっていくかまとめよう (学) ・写真をもとに地域探訪・インタビュー等の調査活動・エネルギー消費に関する講演会 ・電気を使わない生活体験(キャンプ) ・学びを通じて 			<ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化問題、水不足問題、食料問題、エネルギー問題などをはじめとする私たちのくらしに関わる問題について各国の主要エネルギーや資源事情、社会制度、歴史的背景、地理的要因、文化、人口の関係から整理しよう (知) ○地球環境討論会を行い、世界や自分たちのこれからの在り方について様々な立場の人と議論しよう (思) ○国際社会の在り方、関係づくり、自らの生き方についてまとめよう (学) ・私たちのくらしに関する講演会 ・ジグソー学習、ポスターセッション ・地球環境サミット ・学びを通じて 			<ul style="list-style-type: none"> ○今の私たち生活、解決すべき問題、解決策、または互いの関連性などについてつなぎ合わせ、これまでの学びを整理しよう (学) ○「未来を築こう—私の主張—」で、自分の考えを“思いのまま”に主張しよう (思) ○「未来を築こう—私の主張—」を通して学んだことについてまとめよう (学) ・学びを通じて 					
他教科との関連	社会 ・身近な地域の歴史 ・近代の日本と世界 ・現代の日本と世界			・世界各地の人々の生活と環境 ・世界の諸地域 ・近代の日本と世界 ・現代の日本と世界 ・私たちが生きる現代社会と文化の特徴 ・市場の働きと経済 ・国民の生活と政府の役割			・世界平和と人類の福祉増大 ・よりよい社会を目指して					

他教科との関連性がわかるね。



「総合的な学習の時間」では地域や学校、子どもたちの実態に応じて創意工夫を生かした内容を定めることが期待されているため、どの学年で何を指導するのか明示していません。自校で具体的に内容を設定します。

Q4 「単元計画」の見直しのポイントは？



子どもたちにとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとめりとなるように単元を計画することが大切です。そのため、学校として毎年実施する単元計画が存在する場合でも、改めて目の前の子どもの実態に即して、単元を見直しましょう。配慮することは次の2つです。

- ①子どもによる主体的で粘り強い課題の解決や探究的な学習活動を生み出すには、**子どもの問いを重視**すること。
- ②課題の解決や探究的な学習活動の展開において、**教師が意図した学習を効果的に生み出して**いくこと。

単元計画の項目例

1 単元名

・子どもの姿が具体的にイメージでき、学習の高まりや目的が示唆できる単元名に。

2 単元目標

・どのような学習を通して、子どもにどのような資質・能力を育成することを目指すのか明確に示す。

3 児童生徒の実態

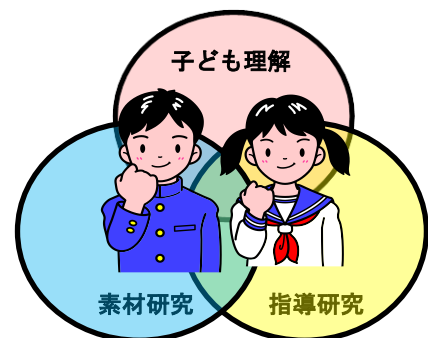
・ふさわしい探究課題や育成を目指す具体的な資質・能力について、どのような実態であるのか明らかにする。

4 単元展開の概要（全○時間扱い）

学習活動	児童生徒の姿	教師の支援 【評価】

全体計画にある、「各学校の目標」「ふさわしい探究課題」「育成を目指す具体的な資質・能力」をもとに各学年や学級毎に、計画を立てましょう。

児童生徒の意識、活動の向かう方向や広がりの可能性を予測することが大切です。



前回の付録と合わせて、校内研修等でご活用ください！